

月報 シオン山

2021年4月4日発行 (No 367)

日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下津2-15-21

Tel (093) 561-0772 Fax (093) 561-0760 E-mail: bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

恐れてはならない。落ち着いて、今日、
あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。
(出エジプト記 14章13節)

「世に勝つ信仰」

牧師 伊藤光雄

「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。」

—ヨハネー5：4b～5—

私たちが生きていくとき、何らかの制約の中で生きていかなければなりませんし、また如何にその制約の中で生きていくかが問われています。戦後直後の日本は「暮らしは低く、しかし思いは高く」という中で始まりましたが、しかし今はそれが全く逆となり暮らしは高く、思いは低く、あるいは暮らしは贅沢、思いは貧しくなっていないでしょうか。

上掲の聖書には「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。」とありますが、「世に打ち勝つ勝利」という場合の「世」とは神を知らない世を指しています。それは神に対して対立し、神を疎外して生き

る世です。ですから私たちが信仰を告白して生きていく場合、そのような世の様々な力、制約の前に立ちふさがりながら信仰を持ち続けていくことは大変なことかもしれません。私たちはこの世の法則が強く、大きな力を持っていることを感じています。

ある方が「人間はそもそも生まれつきエゴイスティック(自己中心的)で他人を愛することができない。自分のことがまず第一で、他人のことは切り捨ててしまう、さらには信仰から生まれてくる希望もこの世の力がかかってくると弱くなり、最後は消されてしまう。天国の希望と言っても結局は架空のものに過ぎないのではないか。確実なのは目に見えて、手でつかめるものではないか」と言いましたがこれはこの世を考えるとときに必ず出てくるものではないかと思えます。

「世に勝つ信仰」とはどういうものなのでしょうか。私たちは「自分は何も信じない、最後は自分の力、知恵、財産だけ…」ということを知ることがあります。しかしそれは世に勝つ信仰には結びつかないのです。主イエスは言われました「だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。」。

私たちが今どのように信じているか、またどの程度信じているかという信仰の在り方が問題ではありません。主イエスは私たちに「いったい、何を信じているか」を問うているのです。

主イエスは、私たちがこの世で生きる場合には様々な悩みがあることを知っています。しかし主イエスは「恐れることはない」と言っているのです。何故ならば十字架と復活の主イエスは「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)と言われたからです。主イエスのこの世の勝ち方は「十字架」と「復活」この二つの出来事を通して行われたのです。主イエスはこの世の法則で十字架にかけられましたが、復活を通してこの世の法則を打ち破りました。

しかし、このように言っても「現実離れしている」と考える人は大勢います。ですから私たちはこの世との戦いは決して完璧な勝利をもとらせるようには思えません。私たちはこの世と戦って常に崩れようとしています。自分の現実の姿に目を留める限り、私たちは決して勝利が得られるとは自信をもって思わないし、戦いが終わったとも思えません。しかし主イエスは「この私に目を留めるならば…」と私たちに向かって語っています。

上掲の「ヨハネの手紙」は、私たちがどのように弱い者か、いかに傷つきやすい者かということを見ているからこそこのような言葉が書かれているのです。この世に生きる私たちにとって一番重要なことは、私たちの十字架と復活の主イエスは世に勝っているということです。

私たちはこの世の法則から自由に解放され、「勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)と言われた主イエスを信じる信仰から私たち一人ひとりに備えられているタラント(知識、能力)を惜しみなく用いて悪しき汚れた世の只中で信仰の勝利をご一緒に表わして参りたいと思えます。